

# 総合的な学習の時間 指導改善のポイント ～「探究のプロセス」を重視する③～

学習指導要領の趣旨を踏まえ、総合的な学習の時間の指導改善を図っていくにはどのようなことが大切か、前号に引き続きそのポイントをおさえていきます。



「探究のプロセス」における学習活動例の紹介（第3回）です。今回は、【整理・分析】について紹介します。収集した情報を整理したり、分析したりする以下のような学習活動は、情報を活用した思考の場面であり、こうした学習活動を適切に位置付けることが大切です。

## 「探究のプロセス」の学習活動例

### 【整理・分析】

#### 事例① カードで整理・分析する

体験活動等で集めた情報をカードに書き出し、グループや学級でまとまりごとに分類しながら情報を焦点化し、整理していきます。

<進め方の例>

- 1 何のためにカードで整理するのかねらいを明らかにする。
- 2 調べたことをカードに書き出す。（1枚のカードに1つ）
- 3 同じ考えのカードの上に自分のカードを重ねながら仲間分けする。
- 4 まとまりごとにタイトルを付ける。
- 5 整理したまとまりにより、分かったことや新たな課題などを明らかにする。

#### 事例② グラフで整理・分析する

調査したことをグラフなどの統計的な手法を使って目に見える形で整理し、事象の特徴を客観的にとらえたり、事実や関係を把握したりします。客観的に整理した情報は、自分の考えや主張の明確な根拠となります。

<グラフで整理・分析すると効果的な情報の例>

- 棒グラフ…各公園に落ちていた空き缶の数、各商店の来客数など
- 折れ線グラフ…米の消費量の変化、消費電力量の変化など
- 円グラフ・帯グラフ…高齢者の占める割合、光熱費の占める割合など

#### 事例③ マップで整理・分析する

エリアごとに調べた情報（数値や言語情報など）をマップに整理し、各エリアを比較したり、エリアの特徴と調査結果を関連付けて考えたりします。

マップは、拡大しておくといくつかの個々に集めた情報を全体で整理することができ、協同的な話し合いの場が生まれやすくなります。

<マップで整理・分析すると効果的な情報の例>

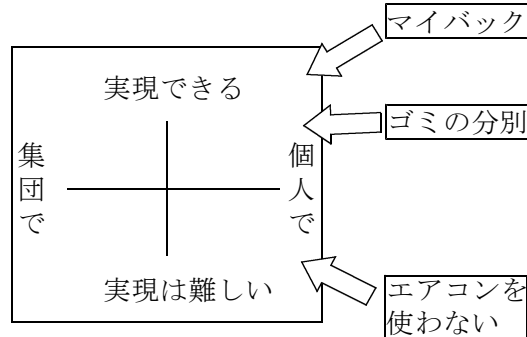
- ・ 点字ブロックのある場所
- ・ 川の生物の分布
- ・ 町のすてきな人
- ・ 商店街の特徴 など

#### 事例④ 座標軸の入ったワークシートで整理・分析する

集めた情報を座標軸を使って整理します。このことにより、視点に沿った考えが促されるとともに、情報を可視化しながら整理することができます。

<進め方の例～「環境問題の改善策」>

- 1 今まで調べた身の回りの環境問題について、その改善策をカード（付せん）に取り出す
- 2 座標軸の視点を決める。
- 3 座標軸を用いたワークシートにカード（付せん）を貼りKJ法的に整理する。

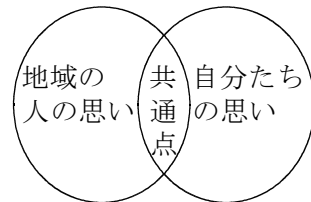


#### 事例⑤ ベン図で整理・分析する

異なる立場からの情報を、ベン図を用いて整理し、共通点や相違点を明らかにします。

<進め方の例>

- 1 多様な情報をカード（付せん）に取り出す。
- 2 異なる立場（年齢、性別、地域、立場など）のベン図を用意する。
- 3 共通点や相違点を考えながらベン図に整理する。



#### 事例⑥ 集めた情報をランキング付けして整理・分析する

体験活動等で集めた情報を、話し合いながらランキング付けして整理します。ランキングの結果を導く過程で多様な見方や考え方が生まれます。自分の考えの根拠を明らかにしていくことにもつながります。

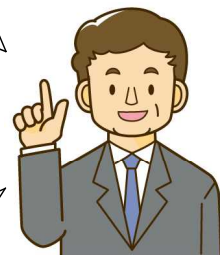
<進め方の例～「A市のよさランキング」>

- 1 調査結果をカード（付せん）に取り出す。
- 2 カード（付せん）を操作しながら各自でランキング付けして整理する。
- 3 根拠を明らかにしながらグループ内で発表し合う。
- 4 グループの考えとしてまとめていく。

「整理・分析」の学習活動を計画する際は、どのような種類の情報が、どの程度収集されているかを把握した上で適切な方法を選ぶことが大切です。

- ・ 言語化された情報→カードで、マップで、座標軸で、ベン図で、ランキングで、等
- ・ 数値化された情報→グラフで、マップで、等

また、学習活動においては、様々な情報を基に、どのように思考させるのか（比較、分類、序列化、類推、関連付け等）を明確にして指導することが大切です。



※ 【まとめ・表現】については、引き続き次号で説明していきます。

各事例の詳細については、「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（平成22年11月 文部科学省）」をご覧ください。